

読書で開く子どもたちの未来

●問い合わせ 図書館 ☎201局5000番

「子どもがテレビやスマートフォン、ゲームを手放さない」。このような悩みを抱えながら、生活習慣を変えられない保護者が多いのではないのでしょうか。

例えば、子どものその手にあるのが本だったら。同じような悩みや心配は生まれるでしょうか。電子メディアに取り囲まれ、そしてその変化に激しく動かされる環境の中でも、本はいつも心に安心感を与え、健やかな成長へとつなげてくれます。「すべての子どもに素晴らしい本の出会いを」。その思いを込めて、町では「水巻町子ども読書活動推進計画(第2次)」を策定しました。

頭脳と心に好影響 調査から明確な結果

計画の策定段階では、読書のもたらす効果をしつかりと把握するため、文部科学省などが行った子どもの読書活動についての調査が

参考資料として使われました。多くの中学生・高校生を対象に行ったこの調査の結果は、幼少期の頃の読書量や読書時間が多い子どもほど、国語や数学の正答率が高くなっていました。また、将来を考える意識や、ルールを守ったり相手を思いやったりする社会性も、読書が多い子の方が良い結果となりました。

電子媒体に負けない魅力 触れ合う環境の再整備

このような結果が出ていても、電子メディアの急速な進化は子どもの感性を刺激し、新たな魅力が次々と生み出されています。そこで、この計画では子どもが本の魅力と触れ合う環境をしつかりと整備することに力を入れました。まずは3つの基本方針を立て、次の具体的な取り組みなどを実施して、計画推進のための着実な第一歩を踏み出していきます。

子ども読書活動推進計画

●基本方針1

▽家庭、地域、学校等、町立図書館における子どもの発達段階に応じた読書活動を推進していきます。

●基本方針2

▽子どもの読書環境の整備及び実務者の資質向上に向けた支援を行っていきます。

●基本方針3

▽子どもの読書活動に関する理解と関心を普及させていきます。「子ども読書の日」や「読書週間」を中心とした啓発活動に加え、毎月23日を「ノーテレビ・ノーゲーム・家読の日」と定め、子どもの読書活動の重要性及び必要性について、講演会などの様々な手段を用いて広く啓発活動を行っていきます。

学校の「図書室」を 本来のあるべき姿に

配架や表示に統一ルール 学校一の情報源を整備

整理された机小学校の図書室。6月～9月にかけて、町の図書館が全面的に支援しながら配架や表示を整理した。



町内の小中学校全てにある図書室。自主学习の象徴的な場で、子どもたちにとって知識の宝がたくさん詰まっているこの部屋もまだ改善すべき点がありました。日本十進分類法(NDC)といわれる図書館で広く用いられている分類法。この分類や表示が、多くの図書室で徹底されていなかったのです。この分類法は、小学3年生の国語の授業で必ず習うものです。図書室が模範となれば、学びの実体験にもなります。平成28年度は机小学校をモデルケースとして、町の図書館が配架を整理し表示方法を刷新。学校の図書司書にも内容を伝えながら、子どもたちが自らの手で情報を引き出しやすい図書室づくりを行いました。今後も、学校と町の図書館で連携を取りながら、図書室を改善し、学習環境の整備につなげていきます。

毎月23日は「家読」で ノーテレビ・ノーゲーム

新しい読書スタイル 本がつくる家族の時間

茨城県の小学生から提唱された「家読」という新しい読書活動。電子メディアでの孤立や少年事件発生の防止にもつながるとされている。



「家読」というまだ耳になじみのない言葉は、この計画の中でも最も重要な取り組みです。「家読」は、読書を通じて家族間の交流を深める新しいかたちの読書活動。絵本などの同じ本を読み、家族で読書後の感想を話題にしてもらいたいというものです。家庭で過ごす時間に読書が加わり、家族の交流も深まる「家読」は、全国的に広く進められているものです。町は学校と連携し、ポスターやチラシなどで各家庭に「家読」の実施を呼び掛けています。図書館でも「家読」をテーマに、家族で参加できる新たな催しを検討しているところ。また、日々の「家読」推進に加えて、毎月23日を「ノーテレビ・ノーゲームの日」と定めました。まずは月に1日、電子メディアから離れ、本や家族との距離を今よりさらに縮めてみましょう。